

八ツ場ダム住民訴訟 原告 陳述

府中市の梅沢みどりです。本日は私の地下水に関わる体験を通して、私たちが八ツ場ダムを望んでいないことを皆さんに訴えるために参りました。

我が家の蛇口をひねると、地下水が4割、河川水が6割ブレンドされた水道水がほとばしり、毎日の生活を豊かに潤してくれます。地下水が4割と言いましたが、市内の別の浄水場では9割を地下水でまかなっている地域もあり、府中市と府中市民は昔から足元の水源である地下水を大切に使ってきました。

府中市と同じように多摩地区の多くの自治体が地下水を水道水源として位置づけています。昭島市の水道事業は100%地下水ですし、三鷹市、調布市、武蔵野市、国立市などは6割が地下水です。

私が地下水に関心を持ったのは、1983年、府中市内の水道水源井戸が発ガン性のある有機溶剤によって汚染されたことがきっかけでした。汚染の拡大を心配した私たちは「府中井戸ばた会議」という市民グループを作り、汚染井戸の浄化を東京都と府中市に働きかけた結果、初めは消極的だった都や市も次第に地下水の重要性を認めるようになり、やがては汚染浄化に積極的になってきました。現在、私たち府中市民はきれいに浄化された、安全な地下水を飲み続けています。

ところで、水道水が地下水から河川水に切り替えられたのは、今から30~40年ほど前、東京の人口急増による地下水の過剰汲み上げが原因で地下水位が低下し、その影響で地盤沈下が進んだからだと認識しております。しかし、地下水の揚水規制が実施された結果、都内の地盤沈下はすでに収まっていますし、それどころか、地下水位の上昇さえも確認されています。

聞くところによると、東京駅や上野駅等の地下駅では重石を入れてどうにかバランスを保っている状態であり、また、地下の工事現場では予想以上にあふれ出す地下水の処理に困りはてているそうです。

21世紀はこれらの地下水をさらに有効に使っていく時期、言い換えれば、地下水を河川水に転換するという水道行政の方向性自体を見直す時期に来ているのではないのでしょうか。

このような状況であるにも関わらず、東京都は地下水を保有水源量に入れず、今までどおりの水道政策を推し進め、八ツ場ダム建設に膨大な予算を投入しようとしています。そして東京都の「安全でおいしい水プロジェクト」は、莫大な税金と労力をかけて遠くから運んできた川の水を、さらに税金を使って高度処理して、都民の飲み水として供給するという、とてつもない計画です。

また、この「安全でおいしい水プロジェクト」では今まで水源として活用してきた地下水のことに全く触れていません。現に多くの多摩地区の自治体が地下水を水道水源として使っているのに、これを認めないのも全くおかしい話です。このようなやり方の中には、費用対効果、自然環境保護、市民参加、などといった、東京都が口を酸っぱくして推奨している施策はどこにも見あたりません。

現実を直視して、全く必要のない八ツ場ダムに莫大な税金をつぎ込むことは大きな間違いであることを検証して下さい。これで私の意見陳述を終わります。

2005年2月16日

梅沢 みどり